

ITU-R SG1 (周波数管理) WP1B会合 (2018年11月) 結果報告

総務省 総合通信基盤局 電波部 電波政策課 国際周波数政策室

1. ITU-R SG1会合の概要

ITU-R SG1 (Study Group 1: 第1研究委員会) は、「周波数管理」に関する議題を担当し、スペクトラム技術 (WP1A)、周波数管理手法 (WP1B) 及び電波監視 (WP1C) を研究対象としている。近年では、主にワイヤレス電力伝送 (WPT)、テラヘルツ帯の利用等の検討が注目されている。

2018年6月のSG1ブロック会合 (WP1A、1B、1C及びSG1会合) では、WRC-19議題に係るCPMテキスト案作成に優先的に取り組み、時間の制約からWPTに係る新報告草案についての議論は十分に行われなかった。これを受け、主にWPTに係る議論を目的としたWP1B会合を開催することとなった。

以下に2018年11月に開催されたWP1B会合の結果を報告する。

2. 2018年11月WP1B会合の結果報告

WP1B会合は、2018年11月16日から20日までの間、スイス (ジュネーブ) のITU本部において開催され、日本から計7名が出席した。議長はこれまでRuoting Chang氏 (中国) が務めていたが、同氏はITU BR事務局の職員となったため、過去の慣例及びSG1のステアリングコミッティの合意により、次回のSG1会合 (2019年6月開催予定) において新しいWP1Bの議長が任命されるまでの間、SG1及びWP1Bの副議長であるL. K. Boruett氏 (ケニア) がWP1Bの議長代行を務めることとなった。今会合におけるWP及び各WGの構成は表のとおり。

また、今会合では、イギリス、トルコ、中国、韓国、EBU、NABA、IARU等からの入力文書及び前回の議長報告のほか、他のSGグループからのリエゾン文書を加えて、計39件の入力文書が審議され、11件の出力文書が作成された。

WP1B会合でのWPTに係る主な議論は、以下のとおりである。

●ワイヤレス電力伝送 (WPT) に係る主な議論

WRC-15でWRC-19の準備のための緊急研究 (課題9.1.6) とされ、EV用WPTの無線通信業務への影響評価と無線通信業務への影響を最小限にする周波数範囲を検討している。WP1B会合では、無線通信規則 (Radio Regulation: RR) での規制論に関するWPTの周波数管理手法及びEV用WPTの無線通信業務への影響評価に関する新報告草案ITU-R SM. [WPT.SPEC.MNGM] の作成作業が進められている。

一方、WPTの周波数管理手法と題している新報告草案にも関わらず、EV用WPTの無線通信業務への影響評価に係るデータの記載や関係する記述が多数を占めており、具体的な規制論に関する周波数管理手法については明示されていない。このため、本会合において、報告書のタイトル及び構成を含めて見直すこととなり、EV用WPTの無線通信業務への影響評価に関する新報告草案ITU-R SM. [WPT-EV-IMPACT] に向けた作業文書と、WPTの規制関連事項を扱う新報告草案ITU-R SM. [WPT-REGULATION] に向けた作業文書 (Elements) に分けて作成することが合意され、両文書がWP1B議長報告に添付され次回会合に引き継がれることとなった。

なお、新報告草案ITU-R SM. [WPT-EV-IMPACT] については、全体構成が整理、入力文書に基づく議論及び編集作業が行われ、次回会合で完成を目指す事が確認されている。また、新報告草案ITU-R SM. [WPT-REGULATION] については、現行のRRにおけるWPTの位置付けや各国の規制状況等が記載されるものであるが、適切な周波数範囲の特定に大きく関わる影響評価の報告書作成を優先させるため、本会合では具体的な議論が行われず、次回会合で議論されることとなっている。

3. 次回会合の予定

次回のSG1ブロック会合は、スイス (ジュネーブ) のITU本部において2019年5月28日から6月7日にかけて開催予定である。

■表. WP1Bの構成と各WGの担当課題

	担当	議長
WP1B	周波数管理手法	L. K. Boruett氏 (ケニア) (議長代行)
WG1B-1	WRC-19議題9.1課題9.1.6、ショートレンジデバイス及びその関連事項	F. M. Yurdal氏 (トルコ)
WG1B-2	その他の事項	Liu Bin氏 (中国)